



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田  
事務局 〒761-2103  
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
綾川町国民健康保険陶病院気付  
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛  
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 第19回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会／令和元年度香川プライマリ・ケア研究会／  
第26回四国地域医学研究会 合同学術集会 開催のご報告

大会長 小豆島中央病院 佐藤 清人／副大会長 三豊総合病院 中津 守人



令和元年11月2日(土)・3日(日)、第19回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会／令和元年度香川プライマリ・ケア研究会／第26回四国地域医学研究会 合同学術集会をサンポートホール高松にて開催させていただきました。今回は並行して香川県地域包括ケアシステム学会が開催されることもあり、参加者数・一般演題応募数が減少するのではないかと心配しましたが、杞憂に終わりました。天候に恵まれたこともあり、2日間で計113名の皆様にご参加いただきました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

また一般演題は四国四県の多職種の皆さまから、様々な分野にわたる20演題ものご応募をいただき、プログラムを10分前倒して阿波谷敏英先生(日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部長／高知大学医学部家庭医療学講座)に開会のご挨拶をいただきました。それでもタイトなスケジュール(質疑応答込みで1演題8分)になってしまいましたが、発表者や座長の皆様のご協力により、活発な質疑応答がなされながらもほぼプログラム通りに進行することができました。



一般演題に引き続き、特別講演の第1部として、綾川町国民健康保険陶病院内科 コルビン真梨子先生から、「英国の医療教育・臨床研修と医療制度」と題し、実体験に基づきご講演いただきました。



国民1人あたりの医療費が日本も英国も40万円程度とほぼ同等である一方、人口1000人あたりのベッド数(日本／英国=13.3/2.8)や在院日数(日本／英国=17.2/7.1)が大きく異なることに驚きました。衝撃的だったのは英国では専門医と総合医の割合がほぼ半々であること。

日本全国で総合診療領域の指導医の先生方が奮闘されている中、せめて医師の3割が総合医になるのはいつの日のことでしょうか。

特別講演の第2部は、香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授 南野哲男先生をお招きし、「地域で

取り組む循環器疾患発症予防」と題し、新時代を担う子供たちの生活習慣病、特に家族性高コレステロール血症(FH)についてご講演いただきました。香川県では、香川県内の大学および基幹病院・地方自治体・香川県医師会と協力し、香川小児生活習慣病予防検診を実施しており、小児生活習慣病に関連する血液検査を実施するのみならず、小児FHの患者からFHの親も発見していく世界初の“リバース”カスケードスクリーニングも併せて行っており、遺伝子診断も含めた早期診断と早期の治療開始に向けた“オール”香川での取り組みに関して、将来的に期待できる成果や現状をご紹介します。



講演のあと支部総会を行い、支部総会終了後、懇親会を会場から徒歩約5分の居酒屋

(海鮮居酒屋 神童ろ(わらじろ))で開催しました。特別講演を賜りました南野哲男先生、コルビン真梨子先生をはじめ43名の皆様にご参加いただき、広い座敷の会場で大いに盛り上がりました。

2日目は朝8:30からポートフォリオ発表会を開催しました。座長は原穂高先生(愛媛生協病院)と大倉佳宏先生(徳島大学病院総合診療部)にお願いしました。近藤啓介先生(徳島大学)、植本真由先生(高松平和病院)、田邊義貴先生(高知医療センター)、江川創先生(徳島県立海部病院)にご発表いただき、多くの聴衆が熱心に聞き入っていました。投票の結果、最優秀ポートフォリオは植本真由先生の演題に決まり、閉会式で表彰を執り行いました。

第4回となった四国プライマリ・ケア交流会では、河南真吾先生(徳島県立海部病院)のご指導のもと、「あなたの知らない身近な医療デバイスの世界」～慢性疾患患者のQOLを向上する秘訣～をテーマにワークショップが開催されました。医学生・医師で3チームを作り、①呼吸器難病患者(在宅酸素療法)、②神経難病(経管栄養)、③難治性腹水(CART療法)の難病患者シナリオに取り組みました。お菓子・飲み物を口にしながら和やかな雰囲気の中、



実際に胸腹水濾過濃縮用装置などの医療デバイスを目の前にして熱心な討論を通じて交流を深めました。ベテラン指導医の先生方にも多数ご参加いただき、私の参加したチームでは、新鞍誠先生(地域医療振興協会)や十枝めぐみ先生(綾上診療所)がタイミングよく助言されていました。

この度の合同学術集会では、事前準備からお世話になった皆様、また2日間にわたってご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。来年度の合同学術集会は愛媛県で開催予定です。川本龍一先生



(愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座)はじめ愛媛県の皆様、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

## ★2 ポートフォリオ発表会&総合診療セミナーのお知らせ

### 高知家総合診療専門研修プログラム 事務局 阿波谷敏英 (高知大学医学部)

高知県内の総合診療、家庭医療の3プログラム合同のポートフォリオ発表会、総合診療セミナーについて、お知らせをいたします。

#### ● 第2回ポートフォリオ発表会&総合診療セミナー

前半は専攻医がポートフォリオを持ち寄り、互いに発表しブラッシュアップをおこないます。後半は、総合診療セミナーを予定しています。

今回の総合診療セミナーは、講師に藤田博一先生(高知大学医学部医学教育創造推進室准教授)をお迎えし、メンタルヘルスのセミナー、ワークショップをおこないます。プライマリ・ケアの現場で遭遇するメンタルヘルスの問題について精神科医としてアドバイスをいただき実践的な学びに繋がりたいと考えています。

日時 2020年1月18日(土) 13:00~17:00

会場 高知市帯屋町2-2-14 OKAMURA  
帯屋町ビル5F コミュバ

参加費 無料

単位 専門医・認定医更新のための単位 4単位  
プライマリ・ケア認定薬剤師の認定単位 2単位

#### ● 第3回総合診療セミナー

前半は、専攻医のこの1年のふり返りを予定しています。特に3月末で研修修了予定の専攻医には研修を通じての成長を発表いただく予定です。後半は、総合診療セミナーとして密山要用先生(東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター)をお迎えし、地域ケアのワークショップを予定しています。総合診療医・家庭医として、地域の健康増進に関わることを一緒に考え、「地域を診る」姿勢を身につけたいと考えています。

日時 2020年3月21日(土) 14:00~18:00

会場 高知市文化プラザかるぼーと 9F 特別学習室

参加費 無料

単位 専門医・認定医・認定薬剤師の単位申請中

いずれも高知県内に限らず、家庭医療・総合診療の専攻医の皆さん、指導医、研修医、学生など、どなたでも歓迎します。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、事務局までご一報ください。

高知家総合診療専門研修プログラム  
第2回ポートフォリオ発表会 & 総合診療セミナー  
～プライマリ・ケアにおけるメンタルヘルス～

日時: 2020年1月18日(日) 13時~17時  
場所: コミュバ  
高知市帯屋町2-2-14 OKAMURA 帯屋町ビル5F  
★1階のスターバックスが目印です

対象: 家庭医療・総合診療研修プログラムの専攻医と指導医  
総合診療に興味のある医療従事者・医療系学生

第1部: ポートフォリオ発表会  
第2部: 総合診療セミナー  
【講師】高知大学医学部医学教育創造・推進室 藤田博一先生

※本セミナーの開催は、『一般社団法人高知医療再生機構』の補助事業を活用しています

参加費: 無料(事前申し込みを下記までお願い致します)

〒783-8505 南国市岡豊町小達185-1 高知大学医学部家庭医療学講座内  
高知家総合診療専門研修プログラム 事務局  
電話&FAX: 088-880-2761 E-Mail: kochisogopg@gmail.com

高知家総合診療専門研修プログラム  
2019年度 第3回  
総合診療セミナー

対象: 家庭医療・総合診療研修プログラムの専攻医と指導医  
総合診療に興味のある医療従事者・医療系学生のみならず

日時 3月21日(土) 14時~18時

第1部 14時~: 専攻医この1年のふり返り  
第2部 16時~: 総合診療セミナー「地域志向ケア」  
~総合診療医が地域と関わっていくには~

講師: 東京大学大学院  
医学系研究科 医学教育国際研究センター  
密山要用先生

場所: 高知市文化プラザかるぼーと9階 特別学習室

参加費: 無料(事前申し込みを下記までお願いいたします)

※本セミナーの開催は、『一般社団法人高知医療再生機構』の補助事業を活用しています

お申込み・お問い合わせ  
〒783-8505 南国市岡豊町小達185-1 高知大学医学部家庭医療学講座内  
高知家総合診療専門研修プログラム 事務局  
電話&FAX: 088-880-2761 E-Mail: kochisogopg@gmail.com

★3 第19回日本PC連合学会四国地方会 第26回四国地域医学研究会 (2019.11.2-3、高松市)

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

愛媛大学医学部附属病院の管理する総合診療専門研修プログラムに所属する菊池 明日香先生が「三叉神経障害を伴った Bell 麻痺の 1 例」と題して本学会で発表した。大学附属病院を受診した Bell 麻痺例であり、三叉神経障害を呈した興味深い症例としてその機序を詳しく解説された。

また同プログラムで研修している赤瀬太一先生からは「当院で経験した高齢者肺結核の対応について」と題して、高齢化社会において問題化されている高齢者の肺結核症例に対する排菌例の対応に関して問題定義がなされた。



愛媛大学医学部では、医学部入学早期から学生の希望する研究室に所属し、実習や研究活動を通じて少人数

での学習に取り組んでいます。現在、地域医療学講座には、1 年生 4 名 (山本 真優、谷本 壮、越智 晴永、山口 真史) が所属し活動しており、「医学生における医療ドラマの視聴習慣の検討」と題して発表しました。



その中で、医学生

の視聴が医師になることに影響を与えるかどうかを研究した結果について発表を行いました。

★PC 教育の一環として地域医療の現場から住民目線で多職種連携活動による地域包括ケアを学ぶ取り組み開催のお知らせ

従来、地域包括ケアに関するプロジェクトを継続しておりますが、昨年に続けて、このたび、下記のような要領で開催いたします。

健康問題をもちながら地域で生活する人々との関わりを通してその人の価値観やニーズを知るとともに、その人の生活を支える家族、専門職、地域住民と関わり、住み慣れた地域でその人と家族が暮し続けることができるための地域包括ケアシステムの推進に向けた医療関係者の役割を体験から学びます。

1. 対象：1 年生～3 年生の医学生と看護学生 20 名程度
2. 期間：2020 年 3 月 9 日～3 月 13 日
3. 場所：今回のプロジェクトは下記に示すように複数の会場で開催されます。

西予市立野村病院、野村保健福祉センター、野村町地域包括支援センター、西予市社会福祉協議会本所 (野村保健福祉センター)、訪問看護ステーション東宇和 / サテライト野村、介護老人保健施設つくし苑 (野村病院横)、

通所介護事業所野村町デイサービスセンター (特別養護老人ホーム法正園)

4. 内容：下記のようなスケジュールで行います。

- 1) 西予市野村町の概要および医療・保健・福祉の現状について受講し、理解を深めます。
- 2) 各学年3名ずつのグループを作り、野村病院医師の外来受診を予定している患者の中から対象者を選定し、家庭訪問および外来受診の同行を行ないます。
- 3) 対象者の予定にあわせて自宅訪問またはデイサービス等に参加し、その人の暮らしを体験しながら、対象者のこれまでの生活やこれからの生活に関する希望、現在の生活に関する思いを聴きとります。
- 4) 保健センターや地域サテライトセンターを訪問し、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種連携・協働について学びます。
- 5) 個々の健康課題から地域の生活背景を理解し、「高齢者が住み慣れた地域で生活し続けるために必要な社会資源と活用」についてワークショップを行い、地域へ貢献するための自らの考えを報告します。



★4 徳島大学医学生による勝浦町立勝浦病院視察」

徳島大学病院総合診療部教授 谷 憲治

徳島大学医学生が作るサークル「T-CoM 地域医療研究会」のメンバーの有志達が顧問の谷教授とともに勝浦町立勝浦病院を視察しました。勝浦病院の院長、勝浦町長や住民の皆さん、病院事務の方々に勝浦病院と勝浦町の文化施設を案内していただきました。

勝浦病院のへき地医療拠点病院としての地域医療への貢献と後方支援病院である徳島赤十字病院との連携などについて学び、令和4年に完成する新病院の情報も教えていただきました。また、勝浦町の住民組織である「勝浦町の地域医療を考える会」の皆さんとの討論会を開催していただきました。住民たちが自分たちが住む町の医療を自分たちの手で守っていこうとする姿に感銘を覚えると同時に、学生たちも将来のどこかで、自分たちを守ってくれるこのような住民のいる町で働いてみたいという気になりました。

午後からは好天の下、勝浦町が町おこしとして取り組んでいあるパラグライダーの体験もさせていただきました。帰りには道の駅で特産の勝浦町ミカンを買うこともできました。休日を返上してご案内していただきました関係者の皆様、ありがとうございました。



## ★5 “第58回自治体病院学会 in 徳島” の開催

美波病院 本田 壮一

昨年10月の全国国保診療施設地域医療学会に続き、徳島市で、表記の学会が2019年10月24日(木)・25日(金)に開催された。徳島県内のPC学会員もたくさん活躍され、実行委員の一人として参画したので紹介する。

テーマは、「医療の源流と新時代の潮流-藍・AI・愛-」。人口減少と高齢化、医師の診療科偏在や地域偏在、働き方改革など、喫緊の問題についての議論があった。

総会の他、「看護」「経営」「薬剤」「放射線」「臨床医学」「臨床検査」「臨床工学」「栄養」「リハビリテーション」「地域医療」と多職種の分科会があった。2日目の総会シンポジウムでは、宍喰診療所の白川光雄先生が、ITの活用などについて発表された(図1)。

また、「臨床医学」の分科会で、谷憲治先生(徳島大学)が特別講演を。「看護分科会」では、小笠原望先生(四万十市)が、訪問診療やみとりなどについて話された。

筆者も、「地域医療・連携・福祉」の分科会で、「持続可能な地域医療の実践」と題したポスターを発表した。同分科会では、「住民とつくる地域包括ケアシステム」と題したシンポジウムがあり、PC学会の吉村学(宮崎大学)、藤原真治(木屋平診療所)、谷憲治(前述)の諸先生らが演壇に立たれた(図2)。

他、徳島県内の自治体病院からたくさんのポスター発表があり、プライマリ・ケアの実践を学ぶ場になった。今回は、2020年秋に奈良県で開催されるという。

